

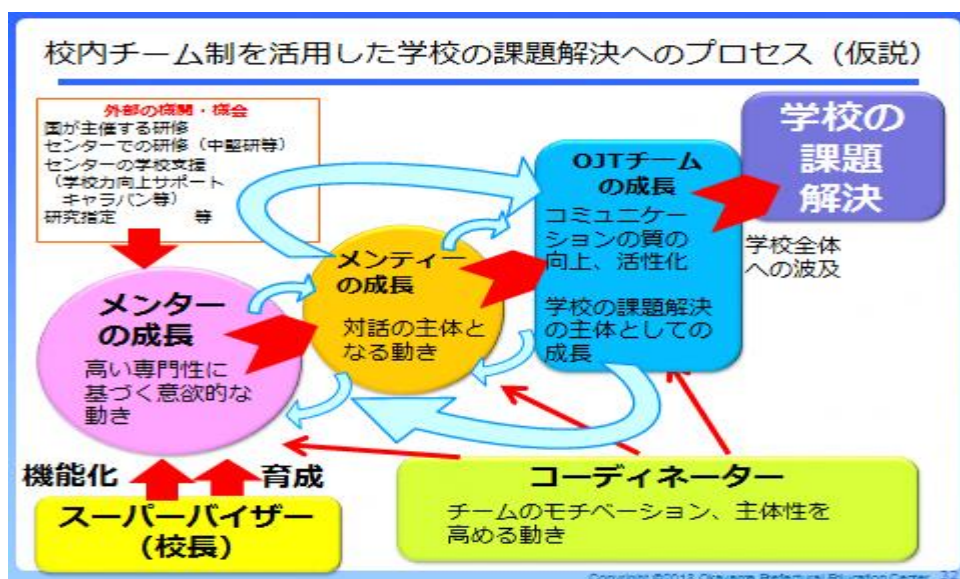
羅針盤

平成29年度第11号(通算289号)
 平成30年2月23日(金) 発行
 岡山県総合教育センター
 Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学校の課題解決に向けた校内チーム制の効果的な進め方 II

学校の課題解決へのプロセス

シリーズ I で紹介したアンケート結果では、「校内チーム制を機能させる上で重要な立場」に着目しました。「機能させる上で重要だと思ふ立場の人を重要と思ふ順から三つ挙げてもらったところ、メンター(先輩教員) 31%、メンティー(若手教員) 23%、コーディネーター 25%という結果になりました。※ その理由に関する記述内容も含めて分析すると、メンターとメンティーを中心とするOJTチームの重要性、すなわち、メンティーのOJTへの積極的な参加を引き出すメンターの高い専門性に基づく動きが鍵になることが見えてきました。※三位までの合算集計



シリーズ II では、以上の分析結果と研究協力校である倉敷市立長尾小学校・勝央町立勝央中学校での実践の分析をもとに、各立場の人がどのような意識をもって、どのように動くことで学校の課題解決につながっていくのかというプロセスについて、左図のような仮説を立てました。

ポイント

【成長したメンターの意欲的な動き】

高い専門性に基づくメンターの意欲的な動きが、メンティーの意欲を向上させ、自ら対話の主体となるなどのメンティーの成長を促します。長尾小では、メンターが専門的立場からの助言を行ったり、本音で語り合える雰囲気づくりに努めたりしました。勝央中では、教科の違うメンティーの指導のために、その教科の学習指導要領を読みこむ等の動きが見られました。それらの動きが、メンティーの向上心の高まり・成長を促進しました。

スーパーバイザー(校長)の戦略

メンターが機能的に動ける体制づくりや育成を図ります。メンターの専門性を高めたり、育成したりするには、サポートキャラバン等外部の刺激を活用することも有効です。

コーディネーターの支援

メンターが動きやすくなるように支援し、OJTチームのモチベーションや主体性を高めるような関わり合いをすることが大切です。

これらの動きにより、その過程で、メンター・メンティーと同時にOJTチームも成長し、学校の課題解決の主体となっていきます。この成長したチームの力が学校全体に波及することで、学校の課題解決につながっていくと考えます。今後、高等学校・特別支援学校においても仮説を分析・検証し、研究を進めて行く予定です。

(担当・教育経営部)

※次号の発行は3/2(金)の予定です。

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>